

(別紙様式1)

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	岐阜市立市橋小学校		
実 施 期 間	平成26年11月1日(土) 3日(祝) 8日(土) 13日(木)		
実 施 概 要	(1) 2日(日)第2回資源分別回収 (市橋小校区全域) (2) 3日(祝)「地区文化祭」への参加 (市橋公民館) (3) 8日(土)第2回学校開放日「コムスク市橋2014」(市橋小学校) (4) 13日(木)第3学年「大根の収穫」(学校南借用農園)		
実 施 内 容	学習・取組の分野 ■自然 ■歴史 ■文化 □産業 ■その他		
	公開の方法 ■授業公開 ■成果発表 ■交流活動 □講演会等 ■地域行事等参加 ■その他		
来 校 者 数	保 護 者	約570 人	計 約700 人
	地域関係者	約130 人	
実 施 状 況	(1) 11月2日(日) 第2回資源分別回収(主催:市橋小PTA)の実施 ・地区で個別回収あるいはステーション方式により回収し、各地区の資源回収委員の方々が集荷場「宇部エクシモ(旧宇部日東化成)」駐車場へ持ち込んだ。(※雨天のため延期実施) (2) 11月3日(祝)「地区文化祭」への参加 ・第1学年～第6学年までの作品(国語・書写、図工、家庭、社会、総合等)を展示した。「米作り」(第5学年の総合的な学習の時間)で収穫した餅米を使い、「餅つき」を行った。 (3) 11月8日(土)「コムスク市橋2014」(第2回学校開放日)の開催 ◇危険箇所、注意すべきことを確認しながら、保護者や地域の方と共に登校班登校した。 ◇子どもと大人の『かがやき』トーク「あいさついっぱい市橋に!」 大人も子どもも、温かいことばをかけあおう <児童・保護者・地域・自治会・学校の各代表をパネラーとして> ・市橋に関わるいろいろな人が『あいさつ』をテーマとして考え、交流する機会とした。パネラーの発表をもとに、フロアー(児童や保護者、教師)も交えて話合った。 ◇学年別行事 1、2年「昔の遊び体験」 3年「昔の話を聞く・体験する会」 4年「手話について」5年「市橋の昔、米づくり感謝の会」 6年「岐阜に残る伝統文化を学ぶ」 ◇昼食→PTA提唱による「お弁当の日」の実践 ◇午前中の学習活動の振り返りと交流 (4) 11月13日(木)第3学年「大根収穫」の実施土地改良理事、JA職員の方々に支援していただきながら収穫した。		

<p>成果及び課題</p>	<p>(1) ○他団体主催の開催時の回収品目をそろえたことにより、地域の各家庭からの協力を得やすくなった。学校環境を整えるための資金を得ることができた。 ▲地区により回収方法が異なるため、資源分別回収への児童の関わらせ方の一層の工夫が必要である。</p> <p>(2) ○実施の反省から展示内容を工夫改善した。(図工・家庭科作品、社会科まとめ学習等)</p> <p>(3) ○「親子での登校」は、子どもの姿を見つめ直すよい機会となった。子どもと大人の『かがやき』トークでは、市橋に関わるいろいろな人が『あいさつ』をテーマとして考え、交流するよい機会となった。子どもたちが自分の考えを積極的に発表する場面があった。子どもの感想(記述)からは、あいさつを頑張っている姿への憧れや、あいさつの大切さを再確認したという内容が多く見られた。 ○「学年別行事」に関しては、どの学年においても、子どもたちと保護者、地域の方とのふれあいが成立していてよかったとの声が多かった。時間通りの進行でよかった。</p> <p>(4) ○関係者の支援のおかげで、貴重な収穫体験をすることができた。児童一人に三本ずつの収穫ができ、子ども達は大喜びだった。地域の方々が大勢集まって、収穫の手伝いをしていただいたことで、学校と地域の連携が一層深まったと感じた。さらに、大根を家に持ち帰って調理してもらうことで、親子の会話の機会が増えたという報告もあった。 ▲支援者(地域諸団体)の功績の周知の仕方及び、子どもの関わらせ方の一層の工夫が必要である。</p>
---------------	---